

# 生きててよかったと言えよう社会を

全女活

2月1日・2日、奈良口イヤルホテルで第70期第1回全国女性活動者会議がひらかれ、松根洋子・女性部長と事務局が参加した。

はじめに、岸田章子・中央女性運動部長は、4月に消費税が増税され、介護保険が上がりサービスは下が

る。私たち女性が力を出し合い、地域みんなが「生きててよかった」といえる社会をめざし、奈良「全女」成功に向けてこの2日間議論しようといさつした。

地元歓迎あいさつで川口正志・県連執行委員長は「奈良の運動の歴史を吸い上げて奈良「全女」を成功させてほしい」とのべた。つづいて、松岡徹・中央書記長より「週刊朝日」差別記事事件のとりくみと今後の課題について学習した。マス



あいさつする  
岸田章子・中央女性運動部長

コミやメディアは部落差別をどうとらえているか勉強をしなければいけない。人権が後退し利益獲得が優先されるマスコミ業界の差別体質がある。そして、脱原発やヘイトスピーチについても部落差別同様に闘っていかなくてはならないと

## 今後の日程

### (4月)

- 4/1 事務局会議
- 4/5 女性対策部会議  
湯浅支部青年部狭山学習会(地域ふれあいサロン だんらん)
- 4/8 県共闘会議第3回幹事会
- 4/11 起草委員会・青年部三役会議(同和企業センター)
- 4/18 Y住宅販売会社差別事件第1回糾弾会(東京)
- 4/21 映画「SAYAMA 見えない手錠をはずすまで」  
(和歌山県民文化会館)
- 4/23 狭山ピラ統一行動
- 4/25 講演会「集団的自衛権のトリックと安倍改憲」  
(和歌山県民文化会館)
- 4/26 第85回メーデー和歌山県中央集会(和歌山城砂の丸広場)
- 4/26-27 全国高校生・青年活動者会議(堺市)
- 4/27 第3回女性対策部会議・全女事前学習(同和企業センター)
- 4/30 和歌山同宗連との話し合い

### (5月)

- 5/1 事務局会議
- 5/7 萬民平等差別戒名追善法会 (高野山)
- 5/9 拡大県委員会 (同和企業センター)
- 5/10~11 第59回全国女性集会 (奈良市)

### (各支部大会)

- 3/29 伏原(文化会館) 4/19 平井・女性部(平井福祉館)
- 4/14 御坊(財部会館) 4/26 古和田(古和田会館)
- 4/17 名古曾(文化会館) 4/28 湯浅(総合センター)

## 生活困難者自立支援法を学ぶ

2日目は男女共同参画審議委員からの報告があり、大阪、和歌山、奈良、京都、鳥取、大分、兵庫から審議委員会でのとりくみや悩みなどが話された。部落の女性の悩みはほかのマイノリティ女性と重なることもあるが重なりにくい部分があり、同じ女性でも私たちが審議委員会に入ることには大きな意味がある。自分

来年4月1日に施行される「生活困難者自立支援法」にかんする学習会を2月5日、杭ノ瀬文化会館でひらいた。県連から平見良太・生活労働運動部長、松井辰也・同副部長、藤本哲史・書記長、事務局4人が参加した。

講師には、小池恒弘・県福祉保健部保護・援護班長、田中義文・同総務課副課長から制度の説明を受けた。

この自立支援法は、生活保護の基準を下まわる人について、住居確保給付金や就労準備支援事業などを活用して生活基盤をしっかりとつくり、就労につなげていく。具体的には、これまでは相談をうけて助言をするという形であったが、自立支援法ではケアマネージャーや民生委員、隣保館



真剣なまなざしで学習した

たちから声を上げないと女性政策から排除されてしまうことや行動計画の文章に明記させることができたが、自分たちがどう実行に移すのが課題であることが報告された。つぎに、各地域の活動報告をし、最後に母は闘わんを合唱した。

## 主体的な行政指導を

### 対県保育交渉

和歌山県との保育交渉を1月31日、杭ノ瀬文化会館でひらき、平見良太・部長、松井辰也・副部長はじめ各支部から約20人が参加した。

特別加配について、配置状況を確認した。県は少子化にともなう園の統廃合があっても、減らすつもりはなく、各市町村からも増減の連絡もないと回答した。

基本要件にかんして、池田副委員長から「課題が明らかなら、どう市町村に指導したらいいかわかるはず。市町村は、県はなにをしてくれるのかと返してることがわかってい

ば、具体的な指示をしづらい」と厳しい意見をつきつけた。県は、ニーズを把握し話し合いをすると回答した。

自由選択制について、杭ノ瀬保育所の入所説明会で同和保育所と知ってやめた人もいる。また、新しい保育所で他所から入所希望が多い。ふたを開けたら杭ノ瀬の子どもが入れない状況もある。地域性を大切にするとという県の考えから離れていると指摘した。県は入所説明会でしっかりと説明をするよう指導すると回答した。

活から、まずは家から出て活動してもらおうことが大きな目的となっている。



和歌山県子ども未来課との話し合い

長年の懸案事項になっている子育て支援センターについて、継続した交渉で中之島に設置されたが、新しく導入される「子ども子育て関連3法」を活用し、課題を抱える同和保育所に設置するよう、強く訴えた。県は、市町村に強く指導する。和歌山市については、市行政の勝手な見切りで発生した結果、同和保育所に

設置されなかった経緯がある。そこを忘れず、これからの新制度をふまえた設置にかかわって、地域との話し合いをしっかりとすすめていくと回答した。

最後に県下のネットワークの構築について07年に和歌山県で全国解放保育研究集会をひらき、ずっとネットワークの構築を要求してきた。未来ある子ども

## 支局からのお知らせ



お気軽にお電話を!

和歌山支局では、各支部でのとりくみを積極的に紹介していきたいと思えます。支部活動や子ども会活動など、支局までお知らせいただけます。取材に走りまわります。もちろん、投稿記事も大歓迎! 写真を添えて支局までお送り下さい。(発送先)〒640-8314 和歌山市神前405-3 部落解放同盟県連合会内 解放新聞和歌山支局宛